

# 平成30年第2回下仁田町議会定例会会議録第1号（7日）

招集年月日	平成30年6月7日					
招集の場所	下仁田町議会議場					
開閉会日時 及び宣言	開会	平成30年6月7日午前10時00分			議長	堀口博志
	閉会	平成30年6月15日午後1時32分			議長	堀口博志
応（不応）招議員 及び出席並びに 欠席議員 出席12名 欠席名 欠員名 凡例 ○ 出席を示す △ 欠席を示す × 不応招示す	議席番号	氏名	出席等の別	議席番号	氏名	出席等の別
	1	小須田 肇	○	7	佐藤 勇二	○
	2	岡田 邦敏	○	8	千野 榮治	○
	3	永井 正之	○	9	島崎 紘一	○
	4	木暮 弘元	○	10	堀口 博志	○
	5	岩崎 正春	○	11	岡田 武二	○
	6	佐藤 博	○	12	佐藤 公夫	○
会議録署名議員	9番	島崎 紘一	11番	岡田 武二		
職務のため議場に出席したものの氏名	事務局長	樋口 令子		書記	佐藤 里奈	
地方自治法 第121条に より説明のた め出席した者 の氏名	町長	原 秀男		保健環境課長	岩井 収	
	教育長	茂木 学		農林課長	佐藤 正明	
	町長公室長	神戸 宏		商工観光課長	岡野 均	
	総務課長	浅川 幸則		建設ガス水道課長	林 光一	
	地域創生課長	猪野 馨		教育課長	大小原 敏江	
	住民税務課長	林 通典				
	会計課長	(住民税務課長兼務)				
	福祉保険課長	岡田 恵子				

議 事 日 程 別紙のとおり

---

会 議 に 付 し た 議 件

---

- 1 会議録署名議員の指名
- 2 会期の決定
- 3 一般質問

会 議 の 経 過

---

開 会 平成30年6月7日 午前10時00分

---

○議長 堀口博志 ただいまから、平成30年第2回下仁田町議会定例会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

---

○議長 堀口博志 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。  
会議録署名議員は、会議規則第126条の規定によって、9番 島崎紘一君と、11番 岡田武二君を指名いたします。

---

○議長 堀口博志 続いて、日程第2、会期の決定を議題といたします。  
本定例会の会期については、さきの議会運営委員会で本会議の運営等について協議がされておりますので、その結果について、報告を求めます。議会運営委員長

(島崎紘一議会運営委員長 登壇)

○議会運営委員長 島崎紘一 おはようございます。  
議長のご指名がありましたので、議会運営委員長報告を申し上げます。  
去る5月29日、午前10時から303委員会室において、議会運営委員会を開催し、本定例会の会期、日程及び議案の取り扱い等の議会運営に関する事項について、協議をいたしましたので、その経過と結果についてご報告申し上げます。  
まず、会期につきましては、本日から6月15日までの9日間とし、審議日程につきましては、お手元に配付されている日程表のとおりであります。  
本日は、会議録署名議員の指名、会期の決定の後、町長のご挨拶をいただきます。

その後、一般質問を岡田邦敏議員、佐藤博議員の2名が行います。

また、一般質問終了後、全員協議会を開催し、本定例会に提案されております報告第3号から第47号議案の細部にわたる説明をしていただきます。さらに時間内に終了しない場合は、8日に引き続き開催させていただきます。

8日は、引き続き全員協議会を開催する場合は、終了後、7日に全員協議会が終了した場合は、午前10時より本会議を開催していただき、報告第2号から報告第4号を報告の後、第44号議案及び第45号議案の提案者の説明、質疑、討論、採決を行います。

次に、第46号議案及び第47号議案の補正予算については、説明、質疑の後、予算決算特別委員会に付託し、陳情につきましては、所管の委員会に付託し、審査をお願いすることに決しました。

9日、10日及び11日は、休会といたします。

12日は、予算決算特別委員会を開催し、終了後、総務常任委員会を開催していただきます。

13日及び14日は、委員会予備日といたします。

15日最終日は、本会議を開き、各委員長から、委員会審査の報告を受けた後、第46号議案及び第47号議案に対しての討論、採決、また陳情の採決を行い、全日程を終了する予定です。

以上、この会期、日程等にご賛同を賜り、円滑な議会運営ができますよう議員各位のご協力をお願い申し上げます。

以上、報告といたします。

○議長 堀口博志 お諮りします。

本定例会の会期は、議会運営委員長報告のとおり、お手元に配付の日程表により、本日から6月15日までの9日間にしたいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長 堀口博志 異議なしと認めます。

したがって、本定例会の会期は、本日から6月15日までの9日間と決定いたしました。

---

○議長 堀口博志 続いて、町長から定例会招集の挨拶を願います。町長  
(原秀男町長 登壇)

○町長 原秀男 皆さん、おはようございます。

平成30年第2回下仁田町議会定例会開会に当たりまして、ご指名をいた

いただきましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、議員の皆様におかれましては、お忙しいところ定例会にご参集いただきましてありがとうございます。

連日暑い日が続いておりますが、各地で梅雨入りのニュースが入ってまいりました。今週末には、馬山地域の皆様のご尽力のたまもであります下仁田あじさい園のあじさい祭りオープニング式典が予定されており、梅雨空に華やかな彩りを添えていただけることと思います。

さて、本定例会には議員派遣の件についてのほか、2件の報告案件、条例改正及び平成30年度一般会計補正予算など第44号議案から第47号議案までの4議案をご提案申し上げます。さらに2件の陳情がございます。

いずれの案件についても、後ほど担当課長からご説明を申し上げますので、よろしくご審議の上、ご決議を賜りますようお願い申し上げます。

以上、平成30年第2回議会定例会開会に当たりましての挨拶といたします。

本日は大変ご苦勞さまでございます。

---

○議長 堀口博志 次に、日程第3、一般質問を行います。

通告書に従いまして質問を許します。岡田邦敏君

(岡田邦敏議員 一般質問席へ)

○2番 岡田邦敏 議席番号2番、岡田邦敏、議長の許可を得ましたので、通告書に基づき質問をさせていただきます。

まず、大きな項目の1番で記載してあります遊休農地の現状と、またその借りている畑等を利用した貸し農園を行政が中心になって計画してみたらと思ひまして、幾つかの項目に分けて質問をさせていただきます。

最初に、町内の耕作地、非耕作地の割合と、また現状等をお伺いしたいと思います。よろしくお願ひします。

○議長 堀口博志 農林課長

○農林課長 佐藤正明 お答えいたします。

下仁田町における農地の状況ですが、耕作をしている農地、A分類の遊休農地、B分類の遊休農地、非農地判断耕作放棄地と農地の状態を4つに分けて説明いたします。

平成29年の調査結果によりますと、耕作をしている農地は、約670.4ヘクタールで、町の農地全体のうち約63%でありました。3年前の平成26年時より約33.2ヘクタールの減となりました。

続きまして、1年以上耕作をしていない遊休農地ではありますが、農業委員会の調査結果では、約393.2ヘクタールで、農地全体のうち約37%でありました。これも3年前と比較して、約21.4ヘクタールの増となりました。

そのうちのA分類の遊休農地ですが、これは簡易な作業で再生利用が可能となる遊休農地であります。これが約72.2ヘクタールで、全体の約7%でありました。

次に、B分類の遊休農地です。これは再生利用が困難な遊休農地であります。これが約227.7ヘクタールで、全体の約21%でありました。

最後に、非農地判断耕作放棄地です。これは今後農地としての再生利用が不可能と判断される遊休農地であります。これが93.3ヘクタールで、全体の約9%でありました。

遊休農地の増加につきましては、原因が複数考えられます。農業に従事する者の高齢化や後継者担い手の不足、また農作業の機械化による条件不立地の不耕作、それから有害鳥獣被害による栽培意欲低下、加えて農地所有者の不在と多岐にわたっていると思われまます。

以上です。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 町の対策がありましたら、お聞かせください。

○議長 堀口博志 農林課長

○農林課長 佐藤正明 町の対応としましては、平成30年度において、農地維持に関する事業や有害鳥獣被害の対策事業等を予算化しております。

また、国・県でも多少縛りはありますが、関連する幾つかの補助事業がありますので、情報を共有しながらさまざまな方面から遊休農地の増加防止に対する事業の実施をしたいと考えております。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 ありがとうございます。よろしく申し上げます。

次に、先ほどの課長の答弁でも触れておりましたが、農業後継者の問題は怎么样了か。農業に限らず、他の業種でも後継者問題は深刻ですが、今回は農業後継者についてお伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長 堀口博志 農林課長

○農林課長 佐藤正明 農業における後継者不足につきましては、全国的にも問題視されておりますが、当町においても若年層の就農者数は著しく減少傾向にあります。

要因としては、過疎化による若者の都市部流出、農作物の価格低迷等が考えられます。また、農業機械や設備の投資に見合った収入が見込みづらいことや、天候、自然災害等に左右され、安定した収入が保証されない等も理由にあると言われていています。

対策の事業としては、新たな経営体で新規就農の希望があれば、国の補助事業で5年間にわたり最高150万円を補助するもの、県の事業で機械の購入等に対して補助するもの等を取り入れて支援いたします。

また、平成30年度では、将来、下仁田町で就農を希望している者2名を最長3年間地域おこし協力隊員として採用いたします。

下仁田ねぎの栽培を中心に、農業の知識や技術を習得させるだけに限らず、町の農作物等をPRしてもらうことも取り組んでもらう予定であります。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 今の課長の答弁で、国や県の事業はわかりました。補助金等。町独自の補助事業を実施していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長 堀口博志 農林課長

○農林課長 佐藤正明 現行において、町独自の事業はありませんが、就農者確保の観点から、町としても検討したいと思います。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 ぜひ町のほうの取り組みをよろしく願います。

次に、非耕作地をそのまま放置しておきますと、野生動物のすみかになる心配がありますが、その点について伺います。

○議長 堀口博志 農林課長

○農林課長 佐藤正明 先ほどの遊休農地対策にも関連しますが、現状放置された畑で雑草や木などが伸びている状況がふえています。やはりその状態のところは、ご指摘のとおり、野生動物の隠れ家になりやすいと思われれます。

町としては、今後の農地の荒廃防止を呼びかけていきたいと考えます。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 自分も実家のほうに少し畑があって、一生懸命草刈りをしているんですが、ぜひよろしく願います。

次に、農地を借りたくても、土地の所有者等がわからないということをと きどき耳にしますが、その点はどうでしょうか。

○議長 堀口博志 農林課長

○農林課長 佐藤正明 町では、土地の所有者等の情報は個人情報保護の関係で教えることができないこととなっています。それなので、地元の農業委員に相

談していただくのがよいかと思えます。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 わかりました。農業委員さんと一応相談することで、よろしくお願ひします。

次に、課長の答弁によりますと、非耕作地の割合や後継者問題等さまざまな問題が増加傾向にあることがわかります。

そこで、私は、いろいろな対策があると思いますが、その中の一つになるかと思ひ、貸し農園の計画をしていただきたく取り上げてみました。確認ですが、現在、町所有の貸し農園があると思いますが、どんな状況ですか。

○議長 堀口博志 農林課長

○農林課長 佐藤正明 現在、町所有ではありませんが、賃貸借地による町管理の貸し農園が下小坂と蒔田で2カ所あります。下小坂が961.21平方メートルで15区画、蒔田が1,414平方メートルで16区画であります。貸し先は町民を対象としております。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 そうですね、今までの関係の貸し農園は町民を対象だけだったと思ひます。これから計画していただきたい貸し農園は、対象者を町民の方はもちろんですが、お隣の甘楽町で既に実施し、成功している甘楽ふるさと農園のような、高速を使えば片道1時間前後で下仁田インターまで来られる東京や埼玉など、日帰りが可能な都市部の公務員や会社員を定年となり、時間や金銭的にも余裕のあるシニア層をターゲットとし、下仁田町で貸し農園をつくり、そこで下仁田ねぎや野菜づくりを楽しんでいただき、遊休農地対策と町の活性化を図りたいと思ひます。

それには場所や所有者等いろいろな問題が今後あると思われまふ。まず、行政が中心となり、関係団体と連携をとり、単年度計画では到底無理ですので、3年から5年の中期的な貸し農園計画を立てたらどうかと思ひますが、いかがですか。

○議長 堀口博志 農林課長

○農林課長 佐藤正明 今後も当町の人口は減っていくことを念頭に置いた場合、町外、特に都市部の人たちが下仁田町の農作物の栽培に来ていただければ、遊休農地増加の防止対策にもなりますし、町の活性化にもつながるものと思ひます。

町としましては、関係機関や市民農園を実施している自治体等の意見を聞いて調査検討をしていきたいと思ひます。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 ぜひ前向きな検討をよろしくお願いします。

この貸し農園等の計画は、国とか県の補助金は対象になりますか。

○議長 堀口博志 農林課長

○農林課長 佐藤正明 事業内容によって、国庫事業の耕作放棄地再生利用緊急対策、県単事業の耕作放棄地再生利用総合対策等、遊休農地を耕作できる農地に戻すための補助事業を活用できるのではないかと思います。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 ぜひ町も財政が少ないので、補助金をうまく利用して、前向きな検討をお願いしたいと思います。

最後に、町長として、この貸し農園等の関係、お考えがありましたら、お聞かせください。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 お答えいたします。

まず、遊休農地なんですけれども、年々増加傾向と、だんだん深刻な問題になっているかなと感じています。何とか農業者後継者問題、また有害鳥獣対策も含めて、俯瞰的に打てる手を打っていきたいと思っております。

また、今、議員提案の町外者向け貸し農園、これもなかなか所有者との問題もありますが、現状を、実情を見ながら有効な手段をとっていききたいと前向きには考えております。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 町長ありがとうございます。ぜひ前向きな検討をよろしくお願いします。

次に、大きな項目の2番で、防災に役立つアウトドアということで、ブッシュクラフト体験会を先ほどのシニア層ではなく、今度は30代、また40代の子育て世代をターゲットに下仁田町に誘客を図り、町を活性化する計画です。

お手元に、こういった「ブッシュクラフトとは」ということで、コピーしたものが配られておりますが、簡単にお話させていただきますと、そもそもブッシュクラフトという言葉は初めて聞く人が多いと思います。自分もその一人でした。本年3月に開催された地域おこし協力隊の報告会で、当時隊員だった小池君の報告を聞き、自分も初めて知りました。

森林や自然を活用するアウトドアということで、簡単に言うと、通常のキャンプではなかなか体験できない、また教える機会も少ない、災害のときや

もしものときに役立つナイフの使い方やロープの結び方など、親子で楽しみながら習得できる、それがブッシュクラフト体験会です。

前置きはそのぐらいにして、本題に入らせていただきます。

近年、地震などの影響で防災意識が高まっております。有事の際は、生活に必要な衣食住を確保する技術は、アウトドアの雑誌などでも特集され、ユーザーに注目されております。こういった専門誌も最近ではいっぱい出回っていますので、お願いしたいと思います。

そこで、町が所有する山やほたる山公園、または荒船湖周辺にある農村公園などを利用して、初心者向けのブッシュクラフト体験会を実施して、子育て世代を中心に誘客し、下仁田町の活性化を図ってみたいかがでしょうか。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 その件に関しては、商工観光課長に答えていただきます。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 それでは、お答えいたします。

ブッシュクラフトは、自然とともに生きることを目的として、木をすり合わせて火をおこしたり、枯れ草や落ち葉で寝床をつくったりと、自然の中で生きる力をもらう研修会と聞いてございます。

研修の中には、緊急時における生命確保の基礎講習も組み込まれております。また、体温を保持するための風雨の防ぎ方や生命を守るための水の確保の方法も学んでおります。災害時には大変役立つ研修だと思われま。

本町においては、平成28年に地域おこし協力隊員であった小池隊員が中心となり、ほたる山公園においてナイフの使い方や火おこし体験など初心者向けのブッシュクラフト体験を実施しております。

ブッシュクラフトは防災知識を学べ、親子一緒に参加できるアウトドア体験会ですので、防災知識を知っていただくことから体験会開催について、今後検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 ぜひ検討のほうをよろしくお願いしたいと思います。

このブッシュクラフト体験会を実施する場合、最初は日帰りでもオーケーかと思えます。泊まれない人もいっぱいいると思いますので。一度にいろいろやろうと思っても無理ですから、最初はナイフの使い方1つ覚えて帰ってもいいと思います。

災害時の協定を結んでいる練馬区を中心に声をかけ、県内の行政の職員や

インターネット等の利便性を活用し、大勢の方に知らせてみたらいかがですか。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 それでは、お答えいたします。

ブッシュクラフトにつきましては、先ほど申しましたように、防災知識を学べる貴重なアウトドア体験だと思います。しかし、一般の方には余り知られていないのが現状だと思われます。

このことから、まずは地域の方や県内の方を対象にしたブッシュクラフト体験の開催を検討するとともに、災害協定先である練馬区への紹介、また町ホームページの周知、そして都内で行われるイベント参加時のチラシの配布等、参加希望者の有無等を確認しながら、県外の方も含めた研修会の開催について検討してまいりたいと思います。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 ブッシュクラフトも観光事業の一環ですが、もう一つの観光事業として沢登り、県内では、みなかみ町のボートを使った沢下りが有名ですが、歴史のある温泉街を持ち、豊富な水量の川があると、下仁田町とは条件が大分違いますので、逆転の発想ということで、例えば町内の栗山地区や青倉地区のような水がきれいで少ない小さい沢を利用した初心者向けの沢登り体験コースを計画し、誘客を図ってみたいいかがですか。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 お答えいたします。

みなかみ町では、川をボートで下るラフティングや溪谷を体一つで下るキャニオニングなど、川を利用したアウトドアのスポーツが体験できますが、豊富な水量が必要と思われます。

本町においては、水量も少ないため、川を下るスポーツの実施は難しいと思われませんが、自然を満喫しながら沢登り等をするのは適しているのではないかと思います。しかしながら、自然を相手にしたスポーツですので、事故も想定されます。

みなかみ町では、これらアウトドアスポーツの運営には、専門のインストラクターがおりますイベント運営会社が開催しているということでございます。仮に下仁田町で沢登り体験を実施する場合も、参加者の安全等を考慮し、スポーツイベント会社が運営を行うこととなると思いますが、沢登り体験に適している川があるかどうか、また安全性に問題がないか等を含めて、まずはイベント会社に相談してみたいと思います。

以上でございます。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 そうですね、安全が一番ですので、ぜひ安全面を考え、また沢登りとブッシュクラフト両方そうですが、自然を相手にすることですから、ヤマヒル対策を十分検討してもらって、お願いしたいと思います。

また、この2点、このような観光事業には、国や県の補助金は該当するものがありますか。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 お答えいたします。

イベントの開催に当たりましては、群馬県の補助事業で地域振興調整費がございます。この補助事業は、新しく始めるイベントに対して、初回のみ助成する制度でございます。補助率につきましては、事業費の2分の1となっております。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 そうですか。新しく始めるときだけというと、やはりこういうものは、回数を重ねてだんだんよくなっていく、そういうこともありますので、2回目、3回目ということで続けたいと思います。できればですね。町としては、何かお考えがありますか。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 お答えいたします。

イベントを継続実施した場合の国、また県の補助制度はございません。ブッシュクラフト体験を行うには、使用する道具であるとか、講師の費用等に対して参加者の負担金が生じます。しかしながら、防災教育という観点からすれば、講師の費用を町が負担するということが可能かと思われれます。

また、沢登り体験については、イベント会社が運営することになりますので、会社が設定した参加費が必要となります。

以上でございます。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 ぜひ町としても検討してください。

最後になりますが、この観光事業2点について、町長のお考えをお聞かせください。お願いします。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 近年、全国各地で地震、また集中豪雨、さらには火山の噴火等、いろいろな災害が頻発しています。そんな中、やはり住民として防災知識も

学べ、また災害に遭遇したときに生き残る方法とか、そういったものを学べるブッシュクラフト体験、これも必要なことでないかなと感じます。そういう意味では研修会開催、これも検討していく必要があるかなと感じております。

また、沢登り体験、これはかなり専門性を有するようなスポーツですので、まず調査していきたいと思っております。

以上です。

○議長 堀口博志 岡田君

○2番 岡田邦敏 ぜひ調査していただき、できるだけ実施の方向に向け検討をお願いしたいと思います。できれば都会のシニア層と子育て世代、どんどん下仁田町に誘客して、活性化していきたいと思っておりますので、よろしく願います。

以上、時間はまだ余りましたが、以上で私の質問は終了させていただきます。ありがとうございました。

○議長 堀口博志 ここで暫時休憩いたします。

なお、再開は午前10時45分といたします。

休 憩 午前10時33分

再 開 午前10時45分

○議長 堀口博志 休憩を解いて再開いたします。

佐藤博君

(佐藤博議員 一般質問席へ)

○6番 佐藤博 それでは、6番議員、佐藤博、議長の許しを得ましたので、これより質問をさせていただきます。

きょうは、傍聴に大勢の区長さん方がお見えでございます。きょうの内容は関心を持って聞いていただけるような内容だと思いますので、しっかりとご答弁を願いたいと思うところであります。

まず、質問の1点目については、安心・安全なまちづくりについての質問をいたします。

下仁田警察署が富岡警察署に統合されて、下仁田交番となってから8年が経過いたしました。警察署のイメージから交番となったイメージダウン分を当時の約束どおり、パトカーにての巡回の回数をふやす等の配慮によってカバーをしていただいていると思います。幸いにして事故・事件等の増加は感じないものの、近年、空き家の不審火による火災の連続等、従来になかった事件絡みの案件も起きている状況であると思っております。

また、最近は全国的に幼い子供の拉致、殺人等悲惨なニュースが後を絶ちません。そのような際に役立つのが防犯カメラとを感じる昨今であります。防犯意識の高揚とともに犯罪の抑止、抑止力の強化の意義を含めての質問をさせていただきます。

現状と状況については、課長さんに質問いたしますが、その後に肝心な質問は、町長さん、教育長さんにさせていただきますので、よろしく願いいたします。

まず、公共事業への防犯カメラの設置状況についてであります。設置箇所と設置数について教えてください。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 お答えします。

平成29年度末現在、11カ所30台でございます。

内訳でございますが、防犯対策として10カ所29台でございます。役場庁舎4台、道の駅「しもにた」2台、保健センター2台、仲町駐車場2台、駅トイレ1台、ガス供給所2台、歴史館4台、自然史館4台、小学校4台、中学校4台でございます。また、自殺者防止対策として、不通橋に1カ所1台となっております。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 この中で通路、また道路に向けての通行車両までを対象としている箇所が何カ所何台あるか。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 今、申し上げた中では、道の駅「しもにた」に1台でございます。それから、仲町駐車場で交差点に向けて1台ありますので、その2台だと思われまして。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 原町長さんにお伺いいたします。

公共施設の防犯体制は、現状これで十分と考えていらっしゃるかどうか。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 今までは、そうですね、いろいろなことが続かなかったというか、平穏な状況でありましたけれども、最近ちょっと不信等あります。そういった中では、また必要と思われる箇所には検討してはいきたいと思っております。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 先ほどの町内11カ所の中に、厚生病院はございませんでしたけ

れども、どんな状況になっておるのか。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 下仁田町の厚生病院でございますが、病院には5台でございます。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 教育現場、小学校に4台、中学校4台の設置状況と今、総務課長に回答いただきました。

教育課長にお伺いします。設置状況の内容についてお知らせいただきたい。

○議長 堀口博志 教育課長

○教育課長 大小原敏江 お答えいたします。

小学校、中学校ともに正面玄関、職員室付近、裏口2カ所の各4台でございます。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 学校周辺の通学路等における設置はあるのだろうか。

○議長 堀口博志 教育課長

○教育課長 大小原敏江 お答えいたします。

通学路における設置はございません。

(「余り詳しく答えるなよ……」の声あり)

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 質問者は私です。

現状で十分と考えられるかどうか、この点について、教育長さんにお伺いしたい。

○議長 堀口博志 教育長

○教育長 茂木学 お答えします。

防犯対策については、やり過ぎということはないと考えております。今後においても、子供たちの安全を第一に考えまして、必要な箇所に増設をしてまいりたいというふうに考えております。

なお、お気づきの点がございましたら、ご指摘いただければ幸いです。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 総務課長さんにお伺いするんですが、先ほど保健センター、学習センターというお話がございました。ここにも設置は施設の中に設置なのか、周辺、道路に向けて、外向きの設置もあるのかどうかについて、おわかりになりましたら。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 道路の状況は映しておりません。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 今、この質問しましたのは、あそこはバスの停留所、小・中学生がそこで乗り降りをする、いわゆる集まる場所でもありますから、外向けも必要なのではないかな、兼ねているのかなということでの質問でございましたので、そのように理解してください。

設置費用についてお伺いしたい。わかる範囲でお願いいたします。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 お答えします。

防犯カメラの設置費用でございますが、いろいろな種類がございますが、1台3万円から30万円程度と言われております。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 仲町の駐車場、過去にオイルの注入が2度ほどあって、カメラの設置をしているわけでありましてけれども、このカメラの設置の効果とこのトイレに設置した2台の費用についてお伺いをしたい。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 お答えします。

防犯カメラを設置した以降、不法行為はございません。

費用でございますが、防犯カメラ2台、レコーダー1台、設置用ポール1本の合計で39万5,895円でございます。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 設置の効果、いわゆる犯罪の抑止効果が出ていると、こういうことかというふうに理解いたします。

設置の状況、2台ともトイレ向きなのかどうか、この点について、最後お伺いいたします。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 お答えします。

仲町駐車場の防犯カメラの2台のうち1台はトイレに向けてあります。もう1台については、入り口の交差点方面を向いております。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 要所要所にぜひ、その前の通り、ここは車両のナンバーまで映せられる装置になっておりますでしょうか、その点はどうか。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 通行車両の確認はできると思いますが、ナンバーを読み取

るまでの解像度はちょっと少ないかもしれません。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 次に、下仁田町の出入り口を含めての道路網等を考慮した防犯体制、カメラの設置等あるのかどうか、把握ができているかどうかをお尋ねいたします。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 お答えします。

道路網に関しましては、道の駅「しもにた」の1カ所等を考えております。それから、県の土木事務所では、道路管理用のために内山峠、和美峠の4カ所にライブカメラを設置して、県のホームページで配信をしております。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 空き家の火災等、不審火が続きました。私は、下仁田町への出入り口等を含めて10カ所程度の設置の必要性を感じるのでありますが、原町長さん、この点いかがお考えでございましょうか。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 そうですね、幹線道路というか、国道になりますと、警察または土木事務所、そんなところと相談しながらも検討はしていきたいと思っています。

また、道路といえば、消防詰所は各幹線道路というか、大きな道路に面しており、また、集落の結構真ん中にもあります。そういったところにも防犯カメラということを視野に入れながら、前向きに検討していきたいと思っています。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 事件等の際には、民間の防犯カメラが役に立っているという事例が多いようであります。そこでお伺いをいたします。民間での防犯カメラの設置状況等についての把握はされておりますか。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 お答えします。

コンビニエンスストアですとか、金融機関等には設置されていると承知しております。具体的な詳細な数値等は把握してございません。今後は、警察等と連携をとりながら、可能な限り調査をできればと考えております。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 個人での設置もあると聞いております。防犯カメラの設置に向けた補助制度の創設についてのお考えをお伺いしたいわけであります。民間で

の設置に向けては、国や県の補助制度はないものだろうか、この点についてお伺いしたい。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 お答えいたします。

現在のところ、自殺のハイリスクについては、群馬県の自殺対策強化事業補助金等の10分の10の補助制度がございます。それ以外に民間等の関係については、今のところございません。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 民間でないとするならば、行政単位とか、町が行う場合と、こういった時点での補助制度みたいなのはございませんか。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 お答えします。

現在のところ、先ほど申し上げた自殺対策強化事業補助金のほかには特には見当たりません。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 例えば、行政区単位、団体への補助は、こういうのはないのか。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 町では、行政区単位に補助制度がございます。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 行政単位の補助制度、国・県でなくて町の補助制度はあると、では、この点について、もう少し具体的にお聞かせください。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 お答えします。

本町には、先ほど申し上げたように、防犯カメラ設置等に限定した補助制度はございませんが、平成23年3月に制定しました下仁田町地域づくり支援事業補助金がございます。

この補助金は、特色のある地域づくりのため、地域が自主的かつ主体的に行う地域の振興及び活性化を図る活動を支援するため、行政区に対して予算の範囲で補助金を交付するものでございます。

補助対象事業の一つに安心・安全の地域づくりがございます。防犯カメラの設置につきましては、この事業に該当いたしますので、地域で話し合っただけ、ぜひ活用していただければと思います。

なお、補助の割合は、対象経費の2分の1以内で、補助金の限度額は10万円となります。

担当につきましては、総務課行政係となりますので、事前にご相談をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 ぜひ、そういった内容について、23年から地域づくりとしての2分の1の上限10万円の補助、これは私も承知していました。しかし、これが防犯カメラとか、こういった対応にも使えるという内容は、私もそこまでは知らなかった。ぜひ区長会さん等を通じて、地域の皆さん方でもひとつご検討する機会をしっかりとお伝えをいただきながら、設置できるところには設置をしていただくよう推奨というか、お勧めをいただきたいというふうに思います。

さらに民間でというか、各自の家庭や商店の店内、あるいは企業の中のこととは別として、外向けにいわゆる庭から外、通路等を撮影できる外向けのカメラ等に対する補助制度の新設ができないかどうか、町長、町として検討していただけないかと思いますが、その点いかがでございましょうか。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 今の質問の趣旨、もう一度明確におっしゃってください。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 個人で設置する場合、うちの中とか、商店さんが店の中とか、企業が企業内とかではなくて、これは個人だけれども、しかし、外に向けて、通路に向けて、通る車両、人を含めた撮影ができるような地域の安全・安心、要は防犯の抑止力につながるような外向けのカメラに対する補助制度を町として考えられないかということであります。よろしいですか。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 今、個人と言いましたよね。個人に対応という意味でとっているわけ。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 個人の家を設置をする。しかし、外向け、家の中ではなくて、あるいは企業にしてもそうです。企業の中に向けてじゃなく、外に向けて、その通路、道路の車両等の撮影ができるようなカメラに対するという条件をつけての補助制度の新設はできませんかという内容でございます。よろしいですか、わかりますか。わからなかったら、わからないと回答してください。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 要するに、個人の対象は難しいということですよ、要は、町でね。じゃ、全部のあれですか、そういう個人の対象で町でつけるんですか。それ

トップダウンでしょう、趣旨がわかりにくいですね。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 わかってて今のような対応をされるのかな。わからないでいて、今のような対応なのか、私にはわかりません。でも、個人の防御ではあるけれども、地域全体を含めた犯罪の抑止、防犯の意味ですということです。全額補助しろとまでは言いません。それはまた検討の中での結論を出す内容ではないかなというふうに思うんですけれども、いわゆる安全な地域づくりをする意味において、全額でなくても個人負担も含めて、補助金の中で設置をする。うちの中じゃなくして、外向けということでの意味なので、わからなければ、そこまでにいたします。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 今、地域と言いましたよね、佐藤議員。だから、さっき総務課長言ったように、それを対象にしてもらえばいいでしょう。それが個人が外を向けてつけるという話になるから、そういうものはいかがなものかなと、私は返事をしたわけですよ。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 なかなか説明に手間取るような状況でございますので、そこまでにしておきたい。また機会があれば、そういった内容を含めた要望をしていきたいと思います。

ぜひ、安全・安心な地域づくりに向けた施策として捉えていただきたいが、犯罪の抑止・防止力になるかと思しますので、また万が一の際には、犯人の絞り込み等にも使えると、そういう活用できると思われるのでの質問であります。

ぜひ、先ほど検討という言葉がありましたけれども、富岡警察署あるいは土木事務所さん等々としっかりと協議、連携をしていただいで、早期に極力たくさん地域、しっかりと設置をしていただけるようお願いをしておきたいと思ひます。

次に、6次産業の現状についてを伺ひます。

まず、商品開発の現状については、いかがな状況になっているのか。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 お答えいたします。

6次産業の現状ということでございますが、まず6次産業について説明させていただきます。

6次産業とは、農家等の生産者がつくるものが第1次産業、その素材を加

工するものが第2次産業、製造された商品を販売する3次産業、それらを全てあわせた取り組みで6次産業ということでございますが、今回、道の駅の再整備事業において、菓子パン工房と総菜工房を新設させていただきました。そして、素材を加工できる2次産業の場を設け、商品開発に取り組んでおります。

菓子パン工房では、道の駅「しもにた」の指定管理者でございます産業開発しもにたが直営で製造を行っておりまして、菓子やパンの製造を一から習得し直売してございます。

また、製造する商品につきましては、パン、プリン、シュークリーム等で、プリン、シュークリームにつきましては、神津牧場の牛乳を100%使用し製造しております。

また、総菜コーナーにつきましては、地元業者が運営しておりまして、ねぎ、こんにゃく、シイタケの地元の素材を具材とした下仁田コロッケ、そして下仁田揚げ等を製造して直売してございます。

以上でございます。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 今後の計画と進め方、さらにまたどんな商品などを開発中であるのかどうか、その辺詳しく一つご説明ください。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 お答えさせていただきます。

菓子パン工房につきましては、今後、地元で収穫された農産物等を砕いてパン生地等に練り込んだ商品等の開発も考えてございます。また、総菜工房につきましても、同様に地元産品を使用した新商品等の開発を考えてございます。

また、産業開発しもにたにおいては、コミュニティー施設の交流施設に調理室に整備された食器乾燥機を利用させていただき、地元の農産物を利用した干し芋またはドライフルーツ、乾燥ねぎ等を製造し、今後、道の駅で販売したいということも計画してございます。

以上でございます。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 道の駅のブースの拡大工事は、昨年終了いたしまして、販売ハンドブースが拡張された。大半が北海道を初めとする各地からの取り寄せの商品が多数を占めていたと、緊張感を持って、スピード感を持って進めてほしいなど、こういうふう思うところがございます。

関連があります道の駅の産業開発しもにたが出てきたところで、3点目の道の駅「しもにた」について、農産物の生産者に対する対応についてを伺います。

販売ブースが拡張され、売り上げは昨年比伸びていると報告をされました。どんな状況であるか。リニューアル後の状況について教えてください。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 お答えいたします。

道の駅がリニューアルオープンしました平成30年、本年1月から3月までの3カ月間の売り上げと前年、平成29年の同時期の売り上げの実績についてお答えさせていただきたいと思います。

まず、直売施設における販売総額でございます。平成29年1月から3月分につきましては2,116万7,000円でございます。平成30年、本年1月から3月につきましては3,178万4,000円でございます。リニューアルオープンという効果もあるかと思いますが、前年と比較して1,061万7,000円の増収でございます。

以上でございます。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 今回の発表していただいたのは、道の駅全体の売り上げですね。いや、うんとか、はい……ですね。

この中で、下仁田産の農家等から入ってくる生鮮品等について、どんな状況であるか、昨年、今年と比較した数字がもしそこにありましたらお話してください。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 お答えさせていただきます。

農産物の販売実績でございます。

農産物の販売実績につきましては、平成29年、昨年の1月から3月期につきましては1,392万円でございます。本年、30年1月から3月につきましては1,762万円でした。前年と比較しますと約370万円の増収でございます。

また、そのうち下仁田ねぎの販売額でございます。平成29年につきましては487万円でございます。本年、30年につきましては592万円でございますので、約105万円の売り上げ増となっております。

また、農産物に占める、売り上げに占める下仁田ねぎの割合ですが33.6%が占めてございます。

次に、生シイタケの販売でございます。これにつきましては、平成29年が144万2,000円でございます。本年、30年につきましては217万1,000円でしたので、72万9,000円の増収でございます。

以上でございます。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 全体が1,060万円増えた。下仁田の農産物が370万円増えた。しかし、全体が3,100万円、30年度の1月から3月、全体が3,100万円の中の1,712万円ということは、全体の売り上げの中の下仁田町の農産物が占める割合が60%ぐらいになるということか。数字違ってないのか。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 全体の売り上げの中にも委託販売であるとか、仕入れ販売の数字も入ってございます。仕入れ販売等につきましては、産業開発しもにたのほうで仕入れて直売所で売るといようなことも行っていますので、その部分が含まれてございます。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 意味がわかりました。産業開発しもにたが千葉県産のサツマイモとか、尾島町の大和芋を仕入れて売っているから、それがちょんしているということなのか。まあ、いいです。今、質問は、きょうはそういうことを言いたいわけじゃない。

生産農家からの農産物の受け入れ体制の規制、あるいは制約があるのか、この点についてお伺いしたい。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 お答えいたします。

まず、道の駅「しもにた」で、農産物等を販売するに当たりましては、まず最初に、産業開発しもにた物販販売計画というのがございます。それに基づきまして販売登録をしていただきます。それと同時に、農林産物及び商品確保等の農産物の出荷者で組織する道の駅「しもにた」直売協力会というのがございます。それに加入するという形になってございます。

この産業開発しもにた物販販売規定及び道の駅「しもにた」直売所協力会の目的としましては、町内で栽培された、また製造された新鮮で安全な農林産物、また加工品を生産者が責任を持って道の駅を通じ、消費者に提供するというために組織されてございます。

以上でございます。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 協力会の会員数、現在何名いらっしゃるか。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 お答えします。

本年4月現在でございますが、一応会員数でございますが130名と伺ってございます。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 この中で、町内、町外、あるいは農家、あるいは企業、こういうような内訳はおわかりになりますか。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 農家の内訳ですね。農家につきましては93件、そして企業さんにつきましては37件と聞いてございます。

また、農家の方については、全て町内の方という形で伺ってございます。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 もう1点、その前に伺います。農家93件は町内ね。そして37件は企業であるから町外という解釈でよろしいか。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 企業さんにつきましては37件町内者もございます。また、町外の方もいるとは聞いてございますが、その内訳については、大変申しわけございません、ちょっと承知してございません。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 ちょっと待って、37件は、これも町内ということ、今そういう解釈の答弁、130件が町内の協力会、こういう解釈になりますか。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 会員数130名でございます。うち農家の方が93名でございます。この93名につきましては、全て下仁田町内の方と伺ってございます。店舗、企業さんで協力会に入っている方が37名ということで、その37名の中には、何名か町外の企業さんがおるということは伺ってございますが、ちょっと数は承知してございません。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 わかりました。37件の企業の中では、町内もあれば町外もあるが、町外の数は把握していないと、こういうことですね。

それで、尾島町の大和芋、千葉県産のサツマイモ、下仁田産かどうかかわからないイチゴが並んでいた時期がございましたが、産業開発しもにたのラベ

ルが張られて販売されていると、これは一例でございます。当然ブースを埋めるための方策であるのかなというふうに思うわけではありますが、どういったいきさつでもって、こういう対応をとられているのか、その辺おわかりになりましたらご説明ください。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 お答えいたします。

道の駅「しもにた」では、指定管理者である産業開発しもにたが、先ほどもご説明させていただきましたけれども、仕入れ販売等も行っております。この仕入れ販売につきましては、道の駅を訪れるお客様に各地の特産品を提供するというのを目的にしています。また、地元の農産物等の出荷量が減少する端境期であるとか等の時期の対応策として、仕入れ販売等も行っておりますということで聞いてございます。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 ある程度は意味も理解するところではあるんですよ。1週間ほど前に道の駅、この通告をしてから視察的にちょっと寄らせてもらったんです。生鮮野菜の販売ブースはワンブースのみ、昨日行ってみたら2カ所あった。時期的なことなんでしょうけれども。

それで、質問の大事なところ、富岡市南蛇井の方が、下仁田町馬山地内の知り合いに農地を借りて、野菜を販売、道の駅にて販売をと申し込んだが断られたというふうに伺いました。この経緯について、おわかりになりますでしょうか。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 岡野均 先ほど申しましたが、経緯については、ちょっと確認はとれてございません。承知いたしてございません。しかしながら、産業開発しもにたの物販の販売規定及び、今、道の駅「しもにた」協力会では、町内農家の保護も一つの目的としてございます。町内農家の方が、下仁田町において生産した農産物を優先的に販売させていただいてございますので、そのことも要因があるかと思えますけれども、経緯については、申し訳ございません、ちょっと確認とれてございません。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 ここをしっかり調べておいてほしかった。きちんと通告して、文書も渡して、この内容も確認しておいてくださいということでお願いがしてありましたよ。残念ですね。通告を無視された感じがします。

生産者が富岡市の方であっても、生産地が下仁田地内であれば、協力会へ

の加入を認めてもよろしいのではないかと、私は思うのでありますけれども、産業開発しにもたの社長さんである原町長さん、いかがお考えですか。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 そうですね、町外の方であっても、下仁田の畑で生産すると、そういう先ほど言った遊休農地の問題とは違うんですけれども、関連がある、そう考えると、畑でつくってもらって、またそれで販売してもらおうと。

協力会というか、直売所協力会と話をし、一つの形として、そういう方向もいかがかと検討していきたいと思います。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 私の質問の仕方もわかりづらいかもしれない。今の答弁、私にはわからない。

先ほども岡田議員が遊休農地対策という形で質問をされていきました。私も昨年3月にも遊休農地対策を質問しています。今日は遊休農地に触れようとしているわけではないんですけれども、いわんや下仁田地内の耕作できていない農地、あるいはもう既に遊休農地がたくさんあると先ほど発表いただきました。これを町外の方に耕作していただいて、そのまま製品については、道の駅で受け入れますよ。これはまさに遊休農地対策ではないんですか。

もう一度質問しますよ。生産者が富岡市、富岡市じゃなくてもいいですが、町外の方が下仁田地内の農地を借りて生産したもの、これを道の駅で会員に加入になって来ていただいて、これを入れるかどうか、協力会の規定があるというならば、その辺からして検討していただいて、会員にさせて受け入れて、繁盛をしてやる、それが町内の農地の遊休農地対策につながるんじゃないか。でっかい遊休農地対策だと私は思うんですけれどもいかがですか。もう一度お願いいたします。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 先ほど言った意味は、そういう意味です。今、佐藤議員が言った意味です。協議していきます。協力会。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 町長の回答で協議という言葉が出た。先ほどまでは検討します。検討しますというのは、金融機関用語では、検討しますでお断りなんだそうですよ。協議しますと言うと、検討するんだそうです。だから、いつまでに検討していただけるか、回答をきちんと出していただきたいなと思うんですけれども、そこまでは失礼かな、いいかね、お答えができたらお願いいたします。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 いつまで……

(「早急に願えれば」の声あり)

○町長 原秀男 協議したいと思います。

○議長 堀口博志 佐藤君

○6番 佐藤博 いいよ、2回言ったから、これ以上は言わないけれども、協議という言葉を使っていたので、しっかり答えを出してください。

それから、こうしたこともしていかないと遊休農地どんどん増えますよ。それと、せつかく道の駅の販売ブースが広がったわけですから、ぜひ北海道から各地のお土産を置くばかりじゃなくて、地元産の農産物を販売してくださいよ。

最後の②ということで準備した通告してある回答を先に今いただいちゃいましたから、最後のこの後の質問はすぐに終わりにしますけれども、いずれにしても昨年3月にも遊休農地対策で質問をいたしました。人手不足、生産者高齢化、生産者減少対策、販売ブースの拡張に何か基本的な準備をとということで、当時いろいろ質問させていただきましたけれども、この回答が、今まで狭いから広げたいということだという、こういう回答をもらっちゃって、当時がっかりしたんですけれども、今後一つしっかりと、もう準備じゃなくて、道の駅販売始まっていますから、遊休農地対策もしっかり対応していただいて、また狭くなっちゃったよというふうなことで、拡張ができるような対応をとっていただきたい。

そんなお願いをしながら、時間がちょっと余って恐縮ですけれども、以上で質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。

以上で一般質問を終結いたします。

---

○議長 堀口博志 本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

大変ご苦労さまでした。

---

散 会 平成30年6月7日 午前11時31分